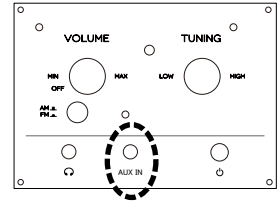
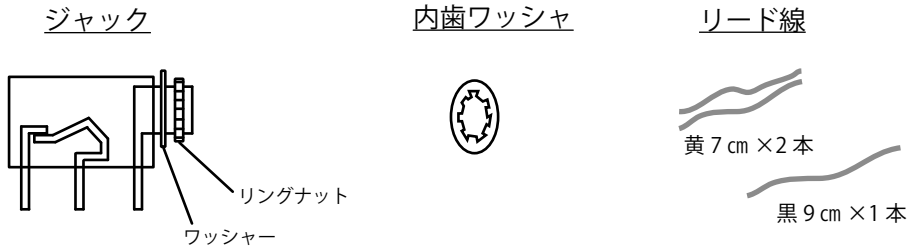


option C (AUX IN 外部入力)

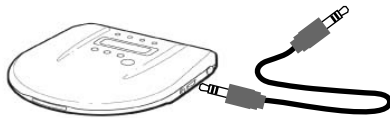
ジャックを付け足して、プラグを差し込んだときに、外部機器からの音に切り替わるようにする。



手順1. 次のパーツを準備しよう。

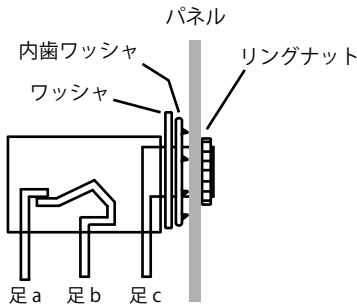


CD + プレーヤー + プラグコード (貸出)



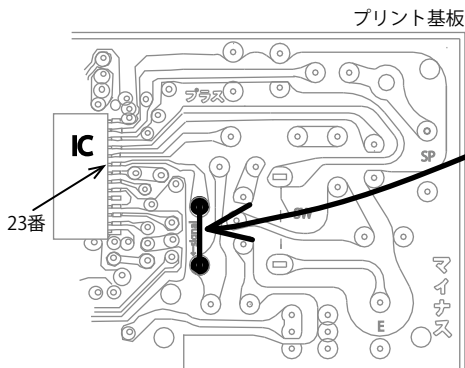
- この3点については、
- * 黒板にかけてあります。
- * 手順7の動作チェックの時のみしか使いませんのでその時に準備しましょう。
- * 自宅では自分の物を使って下さい。
- * CDの中の曲は校歌です。

手順2. ジャックをパネルに固定しよう。



- * 必ず左図の順番になるようにすること。
- * 足 a b c に対してはんだ付けをすることを考えて、固定する向きを決めること。
- * リングナットは、溝をおもてにして手で締めたあとにジャックドライバーでしっかりと締めること。

手順3. ラジオ信号が流れている回路を確認し、ジャンパー線を外しましょう。



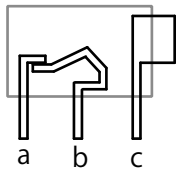
受信されたラジオ信号は、ICの23番から出てきます。その後、この部分のジャンパー線を通ったあとに増幅回路を通してスピーカーに出力されています。そのため、授業ではんだ付けしたジャンパー線を、外す必要があります。両端のはんだを再度溶かして、ラジオペンチで外しましょう。

注意！

- * パターン(ランド)をはがさないよう慎重に行うこと。

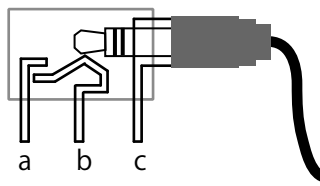
手順4. ジャックの構造を確認しよう。

プラグを挿していない状態



a-b が導通している。
c は何もつながれていない。

プラグを挿している状態

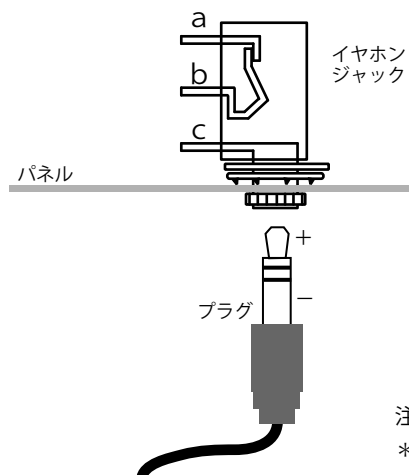
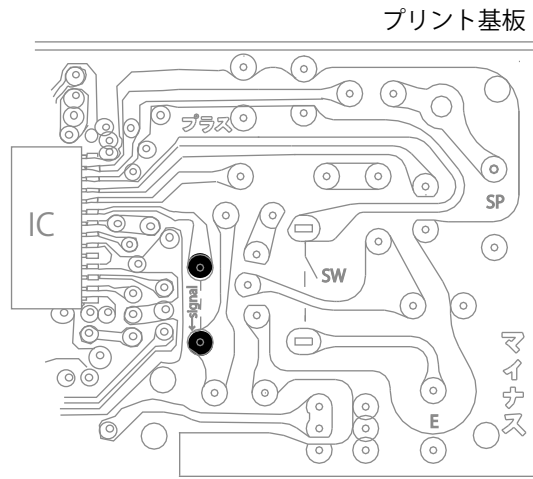


a-b が断線し、
b は外部機器のプラス
c は外部機器のマイナスとつながる。

手順5. 配線を考えよう。

配線を書こう！

手順3 4から、プラグを挿すと、ラジオ信号が遮断されて、外部機器からの信号を入力するには、どのような配線にしたらよいかを書こう。書いたら先生に見せて確認してもらいましょう。



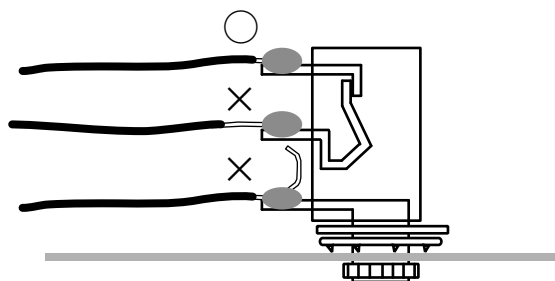
注意！

* マイナス (C) は黒リード線を使うこと。

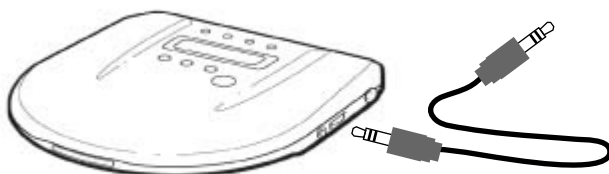
手順6. 実際にはんだ付けをする。

注意！

- * 足 abc がショートしないようにするため、リード線の皮膜をむく幅は最小限とし、はんだ付けする部分も、なるべく小さくすること。
- * 出来ない場合は先生に相談に来ること。

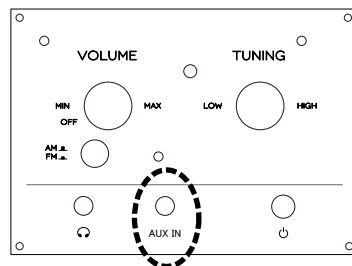


手順7. 貸出 CD プレーヤーを使い動作チェックをする。



CD プレーヤー

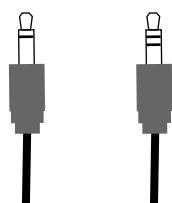
プラグコード



プラグコードについて

プラグコードは、100円ショップで、“オーディオケーブル” などの名前で売っています。

プラグには、下図のようにモノラル用とステレオ用と2種類あります。



モノラル用 ステレオ用



ステレオモノラル変換用
本来はこれを使用した方がよい。



ステレオ用
授業ではこれを利用しました。

皆さんが持っているプレーヤーは、ステレオのことが多いと思いますので、「ステレオモノラル変換用」のコードを使用するのが理想的ですが、「ステレオ用」でも使用することは可能です。ステレオでは、左右のスピーカー（イヤホン）からそれぞれに違う音源を出して、臨場感ができるようにしていますが、「ステレオモノラル変換用」を使用すると、その左右音源信号を混ぜた状態で音がなり、ステレオ用を使うと片側の音源信号のみを利用することになります。